mono.ho hile

成果事例

07

株式会社 浅井ゲルマニウム研究所
函館研究所

●事業計画名／北海道産機能性素材配合の健康補助食品（サプリメント）の小ロット受託製造

株式会社
浅井ゲルマニウム研究所
函館研究所

ＴＥＬ／0138-32-0032　ＦＡＸ／0138-31-0132　https://www.asai-ge.co.jp/

住　所／北海道函館市鈴蘭丘町3-131
（本社は神奈川県川崎市）
代表者／志柿 松作
資本金／1,000万円

設　　立／昭和50年12月（本社）
事業内容／食品・化粧品原料としてのアサイゲルマニウムの製造及び販売、ゲルマニウム及び有機・無機化合物の研究開発

全数検査機はマガジンとレーンを取り替えることで1～4号カプセルに対応

カプセル充填機のサイズチェンジパーツ

2018年に購入した計数充填機は、カプセルをボトル等へ包装する装置。上部のボックスにカプセルを入れると、必要な個数のカプセルが出てきて、ボトルに入れることができる

浅井ゲルマニウム
研究所で製造された製品

製造及び研究部門がある函館研究所

核は「アサイゲルマニウム」の研究・製造

世界で初めて水溶性有機ゲルマニウム「アサイゲルマニウム」を自社開発し、その研究と応用に挑戦し続けている株式会社 浅井ゲルマニウム研究所。製造部門及び研究部門の移転に伴い、1997年に函館研究所が誕生した。現在、同研究所は健康食品や化粧品の原料として、アサイゲルマニウムの研究・開発及び製造・販売を事業の核としている。

“ヘルシーDo”がきっかけとなり、北海道産製品を製造可能な環境に

「北海道は健康によい素材がたくさんあり、研究開発は盛んだが、最終的にサプリメント化できる企業が少ない」。北海道の独自制度“ヘルシーDo”をきっかけに、本事業で健康補助食品（サプリメント）の小ロット受託製造を目的として、様々なカプセルサイズに対応するためのカプセル充填機拡張パーツ、全数検査機、さらにはアルミ袋やボトル等の包装形態にも対応した計数充填機を新たに導入した。カプセル製造の受託事業に必要な設備が整ったのに伴い、素材を要望通りの容量で配合できるようになるなど、成果を実感している。

新たなサイズも対応可能となったカプセル充填機

提案から製造までトータルでサポート

同研究所の強みは、受注製造を小ロットから対応できること。そして、過去に有機ゲルマニウムの医薬品開発に取り組んだ経験があり、健康食品製造においても20年以上の実績を持ち、全国的に見ても非常に高いスキルを持っていることだ。分析機器を豊富に揃え、薬機法をチェックする人材も揃うなど、提案から始まり、トータルでサポートをしている。

計数充填機の作業風景

＼支援機関担当者に聞く／
北海道大学遺伝子病制御研究所

新たな可能性を含め、アサイゲルマニウムの良さを追求

ウイルス感染に関して、“アサイゲルマニウム”が自然免疫の分子レベルでのシグナル伝達においてどう働くのか、その可能性を共同研究している北海道大学 遺伝子病制御研究所の高岡教授。共同研究機関として、「科学的根拠をベースに、新たな可能性も含めて自社が持つ物質の良さを追究している素晴らしい会社。今後も分子基盤の研究を発展させて、健康食品分野での商品開発も頑張ってほしい」とエールを送る。

製造後のサポートも見据えた体制づくりを

執行役員
齋藤 智基氏

函館研究所では、商品化までをサポートできるスキルやノウハウを持っています。また、アサイゲルマニウムに限らず、例えばこれまでにも函館でとれるガゴメ昆布を使ったハードカプセル製造のお手伝いなどをさせていただいた実績もあり、「このような素材があるのだけれど、何か作れないだろうか？」といったご相談にも応じています。

健康食品は医薬品とは異なり、作用性を前面に出せないのが難しいところです。製造までを行って、そこで役目を終えるのではなく、これからは販売の方法までサポートできる体制も作れるようにしていきたいと思っています。